広島湾域の特性を活かした体験型修学旅行誘致調査結果

中国電力株式会社 エネルギア総合研究所　徳　永　成　男

1．はじめに

広島湾を中心に広島県呉市から山口県柳井市・周防大島町にかかる広島湾域は、温暖な気候と山・川・海・島という恵まれた自然環境を持ち、当湾域内に原爆ドーム・厳島神社という二つの世界遺産が存在する。それに加え、充実した平和学習のできる修学旅行先として広く国内に認知されている。

近年、広島湾域への修学旅行生の実績は減少傾向にあるが、2004年度から開始した広島市や呉市など自治体の修学旅行誘致活動の成果により、2006年度実績は前年実績を上回った。しかし、長期的には少子化の影響により、誘致の対象となる修学旅行生の数が減少することは避けられない。さらに、最近では修学旅行の内容も、これまでの観光主流型から班別行動や体験学習プログラムを取り入れるなど多様化している。

そこで、事務局の広島商工会議所を中心に広島湾域の特性を活かした体験型修学旅行誘致の推進に取り組んでいる広島湾ベイエリア・海生都市圏研究協議会（広島県および広島湾域に所在する７市３町〔広島市、呉市、大竹市、廿日市市、江田島市、岩国市、柳井市、坂町、和木町、周防大島町〕ほか、当湾域の商工会議所、商工会、民間企業などで構成される協議会）と当社のコンソーシアムで、近年注目されている体験学習プログラムによる修学旅行生誘致のためのニーズ調査を経済産業省の2006年度サービス産業創出支援事業（観光・集客交流サービス）の一環として行った。本稿は、その報告書の一部を加筆・編集したものである。

2．調査の目的

図表１は、広島湾域の中心都市である広島市の観光客数と修学旅行生数の推移を示している。観光客数は96年12月の原爆ドームと厳島神社の世界遺産登録や04～05年の「ええじゃん広島県」観光キャンペーンの実施などにより増加することがみてとれる。それに対して、修学旅行生はほぼ右下がりの状況にある。

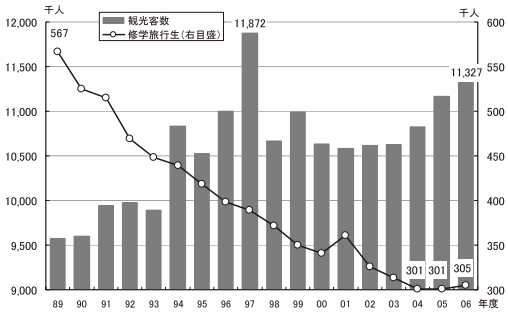
最大の原因として、少子化による児童・生徒数の減少が考えられる。しかし、修学旅行の対象となる小学６年生、中学３年生、高校３年生の人口と広島市を訪れた修学旅行生の数を指数化して比較（図表２）すると、広島市を訪れた修学旅行生の減少率は少子化による児童・生徒の減少率を上回っている。この点についてユーザーである学校側からは、「広島の平和教育は充実しているが、それ以外の点で魅力に乏しい」という意見が出されている。そのため、平和学習に加えた新たな魅力づくりとしての体験学習プログラムが整理されていないため、修学旅行生が他地域へ流出しているということが考えられる。

そこで本調査は、広島湾域への修学旅行生が減少している理由をユーザーである学

校の視点から明らかにし、広島湾域への修学旅行の状況やニーズを把握するために実施した。

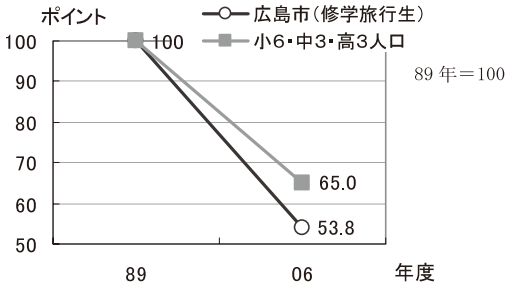
なお、実施にあたっては、広島市の協力を得て、広島市の修学旅行誘致活動による訪問先や過去に広島市を修学旅行で訪れた学校などを対象に実施した。

図表１　広島市の観光客数と修学旅行生の推移



資料：広島県

図表２　学生数と広島市への修学旅行生の減少率比較



資料：総務省「人口推計」、広島県より当研究所作成

調査対象となる学校は、広島湾域への修学旅行生誘致を目的とするため、次のとおり選定した。

・過去に広島市を修学旅行で訪れたことのある学校
・平和を祈念する折り鶴を送付してくれた学校
・広島湾ベイエリア・海生都市圏研究協議会の会員が修学旅行誘致活動で訪問した学校

アンケートは、学校への郵送および会員が修学旅行誘致活動時に学校へ配布する資料に同封して行った。

３．アンケート調査結果

⑴　アンケート対象の属性

本調査の対象となる学校は、広島湾域への修学旅行誘致を目的としているため、小学校は関西地域以西、中学校は関東地域から九州地域、高等学校は中部地域以北中心となった。なお、学校別、地域別の分布は、図表３のとおりである。

図表３　アンケート回収状況

地域別	小学校	中学校	高等学校	合計
北海道	0	0	29	29
東　北	0	3	31	34
関　東	0	44	8	52
中　部	1	27	17	45
北　陸	0	11	0	11
関　西	54	0	0	54
中　国	40	16	0	56
四　国	24	0	0	24
九　州	4	17	0	21
合　計	123	118	85	326

北海道：北海道
東　北：青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、新潟県
関　東：茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、東京都、神奈川県、山梨県
中　部：長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
北　陸：富山県、石川県、福井県
関　西：滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
中　国：鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
四　国：徳島県、香川県、愛媛県、高知県
九　州：福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

資料：当研究所「広島湾域の修学旅行に関するアンケート」より作成

⑵　広島湾域への修学旅行の実績

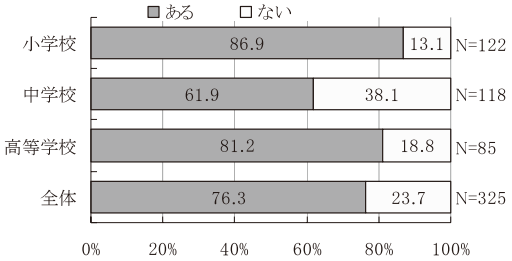
①　広島湾域への訪問実績

広島湾域を訪れた実績を学校別に見ると、小学校は回答校が広島湾域に近い地域であるためか86.9%と高く、高等学校も

80%を超える高い水準であるが、中学校は61.9%と比較的低い水準にとどまった（図表４）。

この理由の一例として、九州地域の中学校では、かつて修学旅行先として広島湾域を選択していたが、修学旅行の移動手段として飛行機が認められるようになったことから、バスや鉄道などで広島湾域に来る時間や費用と空路で沖縄や関西に行く時間や費用を比較検討した結果、沖縄や関西に行き先を変更したということがあげられる。今回のアンケート結果にこうした事例が数多く反映されたものと考えられる。

図表４　広島湾域への訪問実績

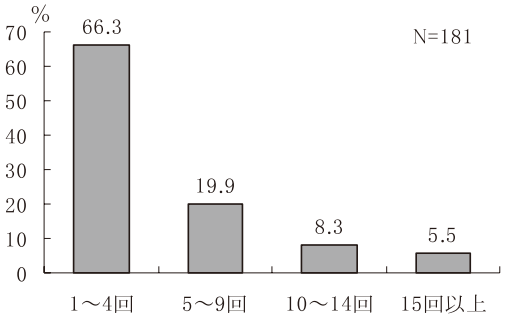


資料：当研究所「広島湾域の修学旅行に関するアンケート」より作成

次に広島湾域への訪問回数（図表５）を見ると、１～４回が66.3%で過半数を超えているが、一方で10回以上という学校も13.8%を占めた。

学校は、修学旅行先を一度決定すると３～４年間はあまり行き先を変更することがないため、１～４回という訪問回数が過半数を超える結果になったものと見られる。また、広島湾域への訪問回数が10回を超える学校も10%以上存在する。これは、伝統的に平和学習はやはり広島だとしてくれる学校が存在してくれている表れだと考えられる。

図表５　広島湾域への訪問回数

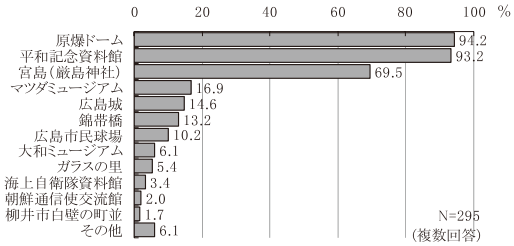


資料：当研究所「広島湾域の修学旅行に関するアンケート」より作成

②　広島湾域で訪問または関心のある場所

原爆ドームと平和記念資料館が90%を超える高い関心を集め、宮島もそれに次いで関心が高い（図表６）。この結果から、広島湾域への修学旅行生誘致は、やはり平和学習と宮島が中心となることが確認できた。しかし、宮島への関心は原爆ドームや平和記念資料館と比べて20%以上の差が開いている。この差は、広島湾域を訪れる修学旅行の行程によるものと考えられる。中学校や高等学校では、広島湾域の平和学習と京都や奈良の歴史文化学習との組み合わせになっている行程が多く、京都や奈良に広島をオプションで追加していることがある。宿泊先も京都や奈良になっており、午

図表６　広島湾域で訪問または関心ある場所



（注）その他は江波山気象館，交通科学館，大久野島など

（注）　その他は、修学旅行選定委員会や保護者など

資料：当研究所「広島湾域の修学旅行に関するアンケート」より作成

前中に来広するものの午後には京都や奈良へ移動するため、広島湾域で十分な時間が確保できず、宮島は諦めて原爆ドームと平和記念資料館のみ訪問するというパターンである。

この点で、広島湾域で十分時間を確保したいと思わせる体験学習プログラムの必要性が確認される。

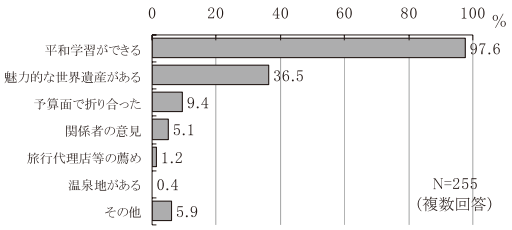
③　修学旅行で広島湾域に来る理由

修学旅行で広島湾域を訪問する理由は、「平和学習ができる」が97%以上を占めた（図表７）。この点から、広島湾域の修学旅行は平和学習中心であるという特徴がみてとれる。

なお、財団法人日本修学旅行協会「教育旅行白書2007年版（以下、『教育旅行白書』という）」による全国的な傾向を図表８で示したが、「寺社・仏閣・町並み等の見学」や「自然体験」などの実施率は高いものの、平和学習は10%前後でそれほど高くない。このことからも、修学旅行で広島湾域に来る目的は、ほとんどの場合が平和学習であるということが裏付けられた。

また、今回のアンケート結果と全国的な傾向から、平和学習と厳島神社の組み合わせや体験学習プログラムの充実は、広島湾域への修学旅行生誘致に大きな効果があると考えられる。

図表７　広島湾域を選んだ理由



資料：当研究所「広島湾域の修学旅行に関するアンケート」より作成

図表８　修学旅行の実施内容

実施内容	小学校	中学校	高等学校
平和学習	6.2%	7.3%	11.9%
寺社・仏閣・町並み等の見学	NA	21.1%	16.6%
伝統工芸・ものづくり体験	17.3%	11.2%	7.7%
料理・食品づくり体験	5.3%	6.0%	5.2%
自然体験	21.3%	6.8%	12.7%

資料：財団法人 日本修学旅行協会　「教育旅行白書2007年版」

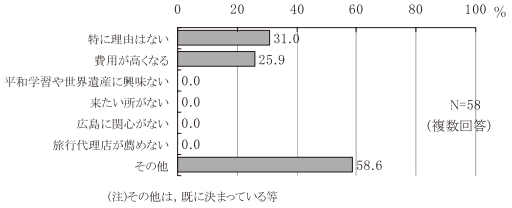
④　修学旅行先に広島湾域を選択しなかった理由

修学旅行先に広島湾域を選択しなかった理由は、「費用が高くなる」が25.9%である（別紙９）。一方、広島湾域の魅力に関する項目である「平和学習や世界遺産に興味ない」、「来たい所がない」、「広島に関心がない」をあげた学校はなかった。これは広島湾域に悪い所がないものと考えることができる。つまり、きっかけさえあれば広島を修学旅行先に選択してもらえると推察できる。

なお、「その他」が60%近くを占めているが、内容は「既に修学旅行先を決めている」あるいは「今の旅行先を変更するつもりはない」というものである。要するに、次年度の修学旅行先は前年に決定しているので、今さら変更できないという意見に解釈できる。

他には、広島湾域にテーマパークが存在しないことも選ばない理由のひとつとしてあげられている。具体的に、「平和学習と岡山県のテーマパークとセットで行程を組んでいる」や「広島湾域には生徒を遊ばせる施設がないので山口県の観光と福岡県のテーマパークに変更した」という意見が出

図表９　広島湾域を選ばない理由



（注）　その他は、修学旅行選定委員会や保護者など

資料：当研究所「広島湾域の修学旅行に関するアンケート」より作成

されており、教育旅行白書でもテーマパークは修学旅行見学先として、中学校・高等学校ではユニバーサルスタジオジャパンや東京ディズニーリゾートが、小学校では志摩スペイン村やスペースワールドが上位にランクされている。広島湾域にはテーマパークが存在しないものの、体験学習プログラムには、仮想体験であるテーマパークでは得ることのできない本物の感動を得ることができる魅力がある。修学旅行生誘致のために、今後は本物の体験の良さをどうやって訴えていくかが課題となる。

⑤　次年度の修学旅行先としての広島湾域

次年度の修学旅行先を広島湾域にしたいかという設問に、半数以上から「そう思う」という回答を得た。しかし、学校別では小学校が79.2%という高い割合になっているのに対し、中学校が33.9%であまり評価されていないなど、大きな差が生じている（図表10）。

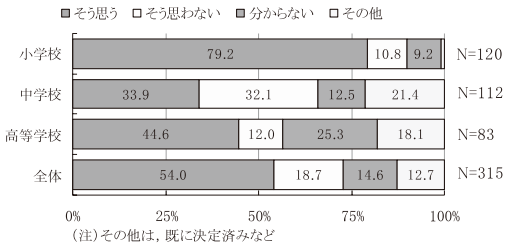
「そう思わない」という回答が小学校と高等学校は10%程度であるのに対して、中学校では32.1%もの割合を占めている。中学校の「その他」には、既に決定済みであるとの補足説明があるものが多いことから、これを実質的に「そう思わない」に近いものであるとすれば、過半数が広島湾域に修学旅行で来る予定がないことを示している。

評価が低くなったことの一因に、例えば九州地域の中学校が修学旅行先を沖縄や関西方面に変更したのが最近のことで、まだ修学旅行先の変更を検討する時期になっていないためではないかと考えられる。

⑥　平和学習で広島湾域を修学旅行先にしたいと思う理由

図表11のとおり、回答したほとんどの学校が「平和の意味や重みを体感できる」ことを理由としてあげている。また、半数を超える学校が「重要な世界遺産がある」ことや「内容が充実している」ことをあげており、広島湾域への修学旅行誘致は、あくまでも平和学習を中心に考えなければなら

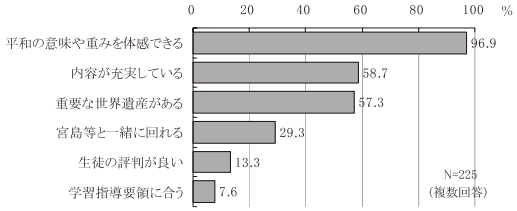
図表10　次年度修学旅行先として広島湾域を選ぶか



（注）　その他は、修学旅行選定委員会や保護者など

資料：当研究所「広島湾域の修学旅行に関するアンケート」より作成

図表11　平和学習で広島湾域を修学旅行先にしたいと思う理由



資料：当研究所「広島湾域の修学旅行に関するアンケート」より作成

ない。

学校別に見る傾向では、高等学校は遠方から訪れるためか「宮島等と一緒に回れる」が49.1%と高い割合で支持を得た。一方、中学校の「宮島等と一緒に回れる」は11.1%で、「生徒の評判が良い」も7.9%と低い。

⑶　修学旅行先の選定基準

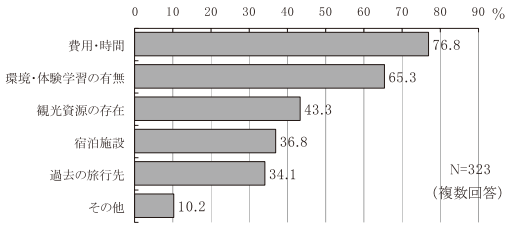
①　修学旅行先を選定する判断基準

全体の選定基準を見ると、「費用・時間」の割合が76.8%で一番高く、次いで「環境・体験学習の有無」が65.3%となっている（図表12）。

「環境・体験学習の有無」を学校別に見ると小学校74.2%、中学校65.3%、高等学校52.9%の順になる。教育旅行白書でも、体験学習実施率は60%強となっており、学校側の体験学習に対するニーズの大きさが分かる。

「観光資源の存在」は、小学校34.2%、中学校41.5%、高等学校58.8%の割合で重視されており、高等教育になるにつれて修学旅行にレジャー的な要素が加えられる傾向が伺える。

図表12　修学旅行先を選定する基準



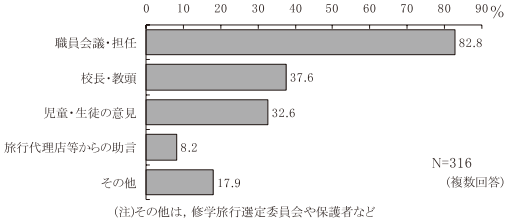
資料：当研究所「広島湾域の修学旅行に関するアンケート」より作成

②　修学旅行先の選定にあたり尊重される意見

修学旅行先を選定するにあたり尊重される意見では、「担任・職員会議」が82.8%で突出しており、学校の修学旅行先を決定する際に大きな影響力を持っていることが分かる。一方で、「旅行代理店等からの助言」は8.2%である（図表13）。「その他」が17.9%あるが、そのほとんどは保護者、保護者を交えた修学旅行選定委員会、あるいはそれに類する会議体や組織である。

学校別の傾向は、小学校では「校長・教頭」が44.9%と高くなっているが、高等学校になると生徒の自主性を重んじるためか「児童・生徒の意見」が48.2%と高くなる。中学校では、「その他」で保護者等の意見の占める割合が高くなるが、「旅行代理店等の助言」は3.4%とさらに低くなる。

図表13　修学旅行先の選定にあたり尊重される意見



（注）　その他は、修学旅行選定委員会や保護者など

資料：当研究所「広島湾域の修学旅行に関するアンケート」より作成

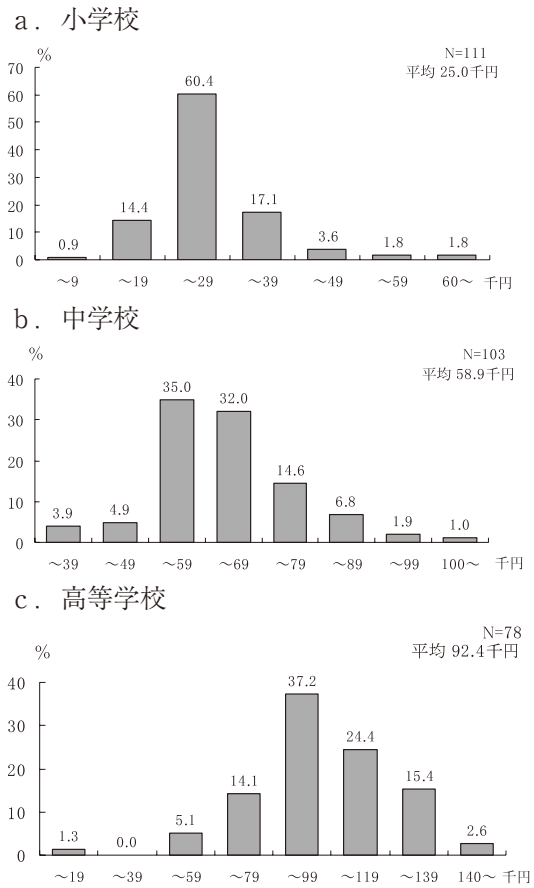
広島湾ベイエリア・海生都市圏研究協議会の中には、直接、学校に修学旅行誘致活動を行っている会員もいるが、今回のアンケート結果から、そのアプローチ方法は修学旅行先の決定者に直接働きかけているので、かなり効果的だということが裏付けられた。

③　一人当たり修学旅行費用（海外旅行を除く）

アンケートで得られた学校別の一人当た

り修学旅行費用は図表14のとおりで、得られた結果は教育旅行白書の平均値とも大きな差はない。広島湾域への修学旅行生誘致にあたっては、この１人あたり費用から交通費を推定し、対象地域を絞り込んでの誘致活動を実施することができる。

図表14　修学旅行１人あたり費用



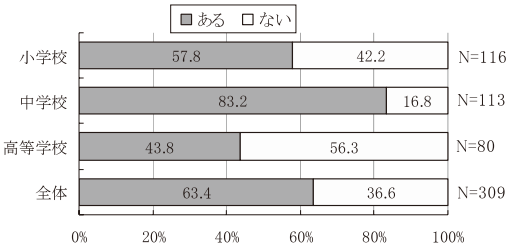
資料：当研究所「広島湾域の修学旅行に関するアンケート」より作成

⑷　体験学習の実績など

①　修学旅行で体験学習を取り入れた実績

学校別で見ると図表15のとおり、中学校の実績が83.2%で最も高く、次いで、小学校、高等学校の順となっている。高等学校が一番低くなっている理由は、テーマパークでの自由行動などを取り入れているためと考えられる。なお、教育旅行白書による体験学習の実施率では、小学校60.5%、中学校63.3%、高等学校61.2%となっている。

図表15　体験学習を取り入れた実績



資料：当研究所「広島湾域の修学旅行に関するアンケート」より作成

②　修学旅行で取り入れた実績のある体験学習と関心のある体験学習

実績がある体験学習と関心がある体験学習のいずれもベスト３は図表16のとおり「陶芸」、「広島風お好み焼き」、「自動車工場・博物館」となった。「陶芸」はケガの心配は少なく、体験したことが形として残る点が高い評価を得ていると推察され、残る２つは広島の名産として認知されていることが理由として考えられる。

実際に体験したことのあるプログラムについては、陶芸のほかにもガラス工房や手すき和紙などの伝統工芸体験が上位を占めた。その他に多いのは、お好み焼きづくり体験といった食育体験やハイキングや海洋生物観察などの自然体験、定置・地引網体験や野菜・果物収穫などの一次産業型の農漁業体験である。

一方で、ウォールクライミングやハンググライダーのように野外で実施し、ケガをする可能性のあるスポーツ体験は実績がなく、関心も示されなかった。教育旅行白書の調査結果では、スキーなどスポーツ体験が中学校と高等学校で20%を超えている

が、今回のアンケートでは異なる結果となった。

今回のアンケートから見て、好まれるプログラムの傾向として、

a．比較的安全もしくはケガをする可能性が低い

b．天候に関わらず実施可能

c．大人数から少人数まで対応可能

d．体験したことが形に残る

という共通点を見ることができる。こうした点は、今後、体験学習プログラムによる修学旅行誘致活動を行う上で考慮しなければならない。

図表16　実績のある体験学習と関心のある体験学習

実施した体験学習	度数	%
陶芸	54	44.6
広島風お好み焼き	30	24.8
自動車工場・博物館	26	21.5
ガラス工房	18	14.9
ハイキング	17	14.0
定置・地引き網	16	13.2
海洋生物観察	15	12.4
野菜・果物収穫	15	12.4
野球観戦	14	11.6
釣り	13	10.7
天体観測	13	10.7
カヌー・シーカヤック	11	9.1
スキー	10	8.3
その他	10	8.3
手すき和紙	9	7.4
潮干狩り	9	7.4
酪農体験	8	6.6
田植え	8	6.6
稲刈り	6	5.0
木工細工	6	5.0
魚さばき方	4	3.3
干物づくり	4	3.3
藻塩づくり	4	3.3
新聞印刷所	3	2.5
バードウォッチング	3	2.5
乗馬	3	2.5
わら草履	2	1.7
もみじ饅頭	2	1.7
海岸漂着物観察	2	1.7
花卉栽培	2	1.7
炭・竹炭づくり	2	1.7
トレッキング	2	1.7
発電所	2	1.7
しゃもじづくり	2	1.7
鯛めし	1	0.8
牡蠣打ち	1	0.8
各種ジャム作り	1	0.8
パラグライダー	1	0.8
ポテトチップス工場	1	0.8
金魚ちょうちん	1	0.8
筍掘り	1	0.8
植林	1	0.8
つる・竹細工	1	0.8
ウォールクライミング	0	0.0
岩国ずし	0	0.0
竹林間伐	0	0.0
しょうゆ料理	0	0.0
養鶏体験	0	0.0
ハンググライダー	0	0.0
サンプル数	121	100.0

関心のあるもの	度数	%
広島風お好み焼き	71	36.0
自動車工場・博物館	56	28.4
陶芸	48	24.4
手すき和紙	31	15.7
もみじ饅頭	30	15.2
海洋生物観察	30	15.2
定置・地引き網	28	14.2
カヌー・シーカヤック	24	12.2
しゃもじづくり	23	11.7
ガラス工房	21	10.7
野球観戦	20	10.2
牡蠣打ち	16	8.1
炭・竹炭づくり	16	8.1
その他	16	8.1
ポテトチップス工場	15	7.6
天体観測	14	7.1
釣り	14	7.1
潮干狩り	14	7.1
ハイキング	13	6.6
藻塩づくり	13	6.6
新聞印刷所	12	6.1
酪農体験	12	6.1
スキー	12	6.1
つる・竹細工	11	5.6
わら草履	10	5.1
金魚ちょうちん	10	5.1
野菜・果物収穫	9	4.6
海岸漂着物観察	9	4.6
パラグライダー	8	4.1
木工細工	8	4.1
各種ジャム作り	7	3.6
発電所	7	3.6
魚さばき方	7	3.6
乗馬	6	3.0
鯛めし	6	3.0
竹林間伐	5	2.5
田植え	5	2.5
バードウォッチング	5	2.5
干物づくり	5	2.5
花卉栽培	3	1.5
植林	3	1.5
稲刈り	3	1.5
トレッキング	2	1.0
ハングライダー	2	1.0
岩国ずし	2	1.0
しょうゆ料理	1	0.5
養鶏体験	1	0.5
ウォールクライミング	1	0.5
筍掘り	0	0.0
サンプル数	197	100.0

資料：当研究所「広島湾域の修学旅行に関するアンケート」より作成

③　修学旅行で体験学習を継続する意思について

小学校と中学校では継続する意思のある学校が過半数を超えていることに対して、高等学校では22.4%に過ぎず、「分からない」が68.7%を占めた（図表17）。この原因として、

a．過去に実施した体験学習プログラムに何らかの問題があり、生徒や教職員に悪い印象を与えた

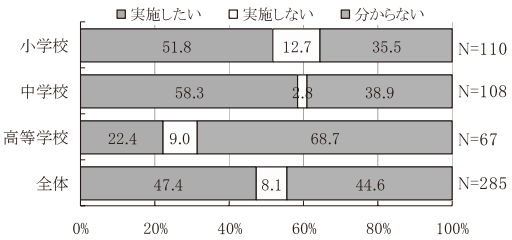
b．高等学校の修学旅行が日程短縮の方向にあり、最低でも２時間は必要である体験学習を組み込む余裕がなくなってきた

c．高等学校の修学旅行がレジャー化しつつあり、体験学習プログラムよりもテーマパークなどが好まれるようになった

などが考えられる。

bもしくはcに対しては、テーマパークよりも魅力的な体験学習プログラムを提供することが必要で、aに対しては、指導者であるインストラクターの質を向上させることが解決策につながるものと考えられる。この点からも、体験学習プログラムの成否はインストラクターによるところが大きいといえる。

図表17　修学旅行で体験学習を継続する意思



資料：当研究所「広島湾域の修学旅行に関するアンケート」より作成

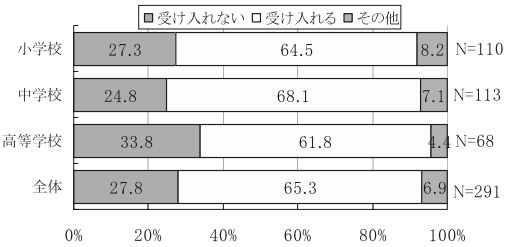
④　多少の危険を伴う体験学習の実施について

体験学習プログラムは、被体験者に本物の体験をしてもらう。そのため、食育体験では包丁を使うこともあるし、漁業体験では船の上で作業をするので海に転落する可能性もあるなど、ケガをする可能性が少なからずある。この点について学校側は、「問題なし」とする意見が60%を超えた（図表18）。

一方で、ケガをする可能性のある体験学習プログラムを「排除する」という意見は、高等学校で一番高い。この理由として考えられることは、高等学校では１学年あたりの参加人数が多くなるため、学校側がインストラクターの目が届かなくなるところでのケガを心配しているのもだと思われる。

なお、ケガの可能性については、その他意見として「生徒に体験させるプログラムは、教員が事前に体験して確かめる」という学校もある。

図表18　ケガをする可能性のある体験学習の受け入れ



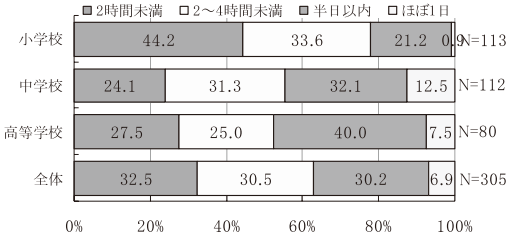
資料：当研究所「広島湾域の修学旅行に関するアンケート」より作成

⑤　体験学習に費やせる時間

旅行日数と関連しており、大半の学校が１泊２日の行程である小学校では「２時間未満」が多く、３泊４日以上で行程に余裕がある高等学校では「半日以内」が一番多い（図表19）。

体験学習プログラムを提案するにあたり、こうした学校別のニーズに対応できるプログラムを提案できるかが成否を分けると思われる。

図表19　体験学習に費やせる時間



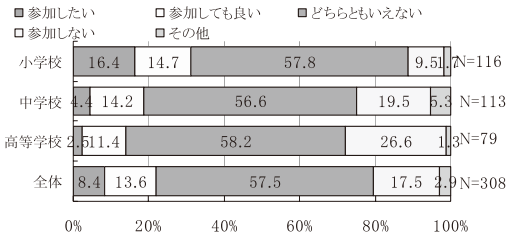
資料：当研究所「広島湾域の修学旅行に関するアンケート」より作成

⑥　広島湾域での体験学習を実施する意向について

小学校では消極的な参加も含めて３割近い参加の意向があるが、高等学校では「参加しない」が３割近くなっている（図表20）。さらに、「どちらともいえない」が半数を超えているが、これはアンケート時点には広島湾域の体験学習プログラムに関する情報発信が十分でなかったため、回答者も具体的なイメージをつかむことができなかったためだと思われる。この点から、具体的な情報を発信することの重要性がみてとれる。

今後の修学旅行誘致活動を推進するため、学校や旅行代理店に配布するパンフレットや情報を発信するホームページの開設など、今後取り組むべき課題も明らかになった。

図表20　体験学習への参加意向



資料：当研究所「広島湾域の修学旅行に関するアンケート」より作成

⑸　アンケート結果のまとめ

①　広島湾域での訪問場所や関心のある場所

広島湾域での訪問場所もしくは関心のある場所は、「原爆ドーム」と「平和記念資料館」が90%を超えており、平和学習の場として「原爆ドーム」と「平和記念資料館」が引き続き修学旅行誘致の中心的な役割を担う。

②　広島湾域を選択した理由からみた体験学習プログラムの必要性

修学旅行先に広島湾域を選択した理由を見ると「平和学習ができる」が圧倒的で97%以上の支持を得ており、学校側は、平和学習のために「原爆ドーム」と「平和記念資料館」を訪問するという行程を組んでいる。一方で、平和学習のために広島湾域を訪れ、そのまま次の観光地へ移動するという行程が多い。このため、観光通過型の修学旅行から、滞在型の修学旅行へ移行させるため、また平和学習プラスアルファの魅力として体験学習プログラムの提供は有効と考えられる。

③　広島湾域を選択しない理由からみる広島湾域の魅力づくり

広島湾域を選択しない理由は、「既に修学旅行先を決めている」、「今の旅行先を変更するつもりがない」がほとんどである。広島湾域は、複数ある候補地の中で飛びぬけた存在ではないということと、修学旅行先を変更してまで広島湾域を選択するほど

の理由がない（例えば、テーマパークがない）ということになる。

すなわち、選択しない理由からも、いっそう「広島湾域らしい魅力づくり」が必要であると考えられる。

④　まとめ

アンケート結果から、学校別に特徴をまとめたものが図表21である。当然のことではあるが、対象地域・滞在傾向は、日程上の制約により学校別に大きく異なっており、また、旅行先の選定主体も、年齢が上がるにしたがって生徒の自主性を重んじる傾向がはっきり出ている。体験学習の実績と関心では、実績のあるプログラムが関心をもたれている。これからプロモーション活動を行う際に、十分配慮することが必要である。

4．今後の方向性

アンケート結果を踏まえ、今後の体験学習プログラムによる修学旅行生誘致の方向性として、以下のような取り組みが考えられる。

⑴　学校へのアプローチ

①　小学校

小学校は、１泊２日という修学旅行の行程を考慮して、山陰・四国地域を対象にする。アンケート結果から見ると、小学校は広島市内に滞在し、時間を費やす傾向があるので､「広島風お好み焼」や「自動車工場･博物館」見学など、団体で安全に活動できる体験学習プログラムを推奨する。

②　中学校

中学校は、２泊３日の行程と費用面から九州地域を対象にする。アンケート結果から見ると、「陶芸」や「広島風お好み焼」などが好まれる傾向にあるので、これを前面に出す。さらに、広島湾域での滞在時間を増やすため、宮島への訪問を推奨する。

図表21　アンケート結果にもとづく学校別特徴

	小学校	中学校	高等学校
対象地域	山陰・四国地域	九州地域	中部以北地域
滞在傾向	広島市内で時間を費やす傾向あり	宮島が全体と比較して低い	原爆ドーム、平和資料館、宮島以外には関心が低い
旅行先としての希望	79.2％が次年度以降の修学旅行先として希望	希望する、希望しないとも約３割	44.6％が希望
旅行先の選定主体	いずれも、職員会議・担任が約80％程度である。 高等学校では、生徒の意見が48.2％となっている。		
実績のある体験学習	１位　広島風お好み焼 １位　自動車工場・博物館 ３位　天体観測 ３位　野球観戦	１位　陶芸 ２位　広島風お好み焼 ３位　定置網・地引網 ３位　ガラス工房	１位　陶芸 ２位　海洋生物観察 ３位　スキー ３位　自動車工場・博物館
関心のある体験学習	１位　広島風お好み焼 ２位　自動車工場・博物館 ３位　もみじ饅頭	１位　陶芸 ２位　広島風お好み焼 ２位　自動車工場・博物館	１位　広島風お好み焼 ２位　自動車工場・博物館 ３位　陶芸

資料：当研究所「広島湾域の修学旅行に関するアンケート」より作成

③　高等学校

高等学校は、３泊４日以上で行程に余裕があり、費用面で空路の利用も可能なので、中部以北地域を対象にする。原爆ドームや平和記念資料館に宮島を加えた体験滞在型プランとして、「陶芸」「海洋生物観察」「広島風お好み焼き」などグループで自主的に選択できる体験学習プログラムを推奨する。

⑵　修学旅行生受入れに関する取り組み

①　広島湾域の魅力を活かした体験学習プログラムの整理

最近、学校側において修学旅行で体験学習プログラムを取り入れる傾向が見られ、体験学習プログラムの先進地といわれる地域での受入れ人数は右肩上がりに増加している。

こうした状況下、これから広島湾域でも体験学習プログラムによる修学旅行誘致を行うためには、広島湾域の特徴を活かして、他地域との競争に耐えうるだけの体験学習プログラムを提供することが必要である。

②　インストラクターの養成

体験学習プログラムの要は修学旅行生を直接指導するインストラクターにある。インストラクターには、修学旅行生に本物の感動を与えられること、さらには生徒に何かを伝えられる熱意が必要で、その位置付けは重要である。

そこで、修学旅行生の受入れにあたり、研修によるインストラクターのレベル向上と新たなインストラクター候補者の発掘などに努めなければならない。

③　地域内の受入れ体制整備

中学校や高等学校では、１学年あたりの人数も多くなるため、修学旅行生の誘致にあたり、地域内の受入れ体制を整備しなければならない。例えば、人数を分散しての受入れの可否、班別行動や体験時間をずらしての対応など工夫をこらした受入れの検討が必要である。さらに、官民が協力して受入れ体制を整備することも大切である。

④　情報発信

広島湾域の魅力を効果的にアピールするため、インターネットやパンフレットを活用した情報発信が必要である。発信する情報は、修学旅行のモデルコースやイベント情報に加えて、臨場感あふれる動画を配信することで、現地の雰囲気を伝え、訪問したいと思わせることの工夫が求められる。